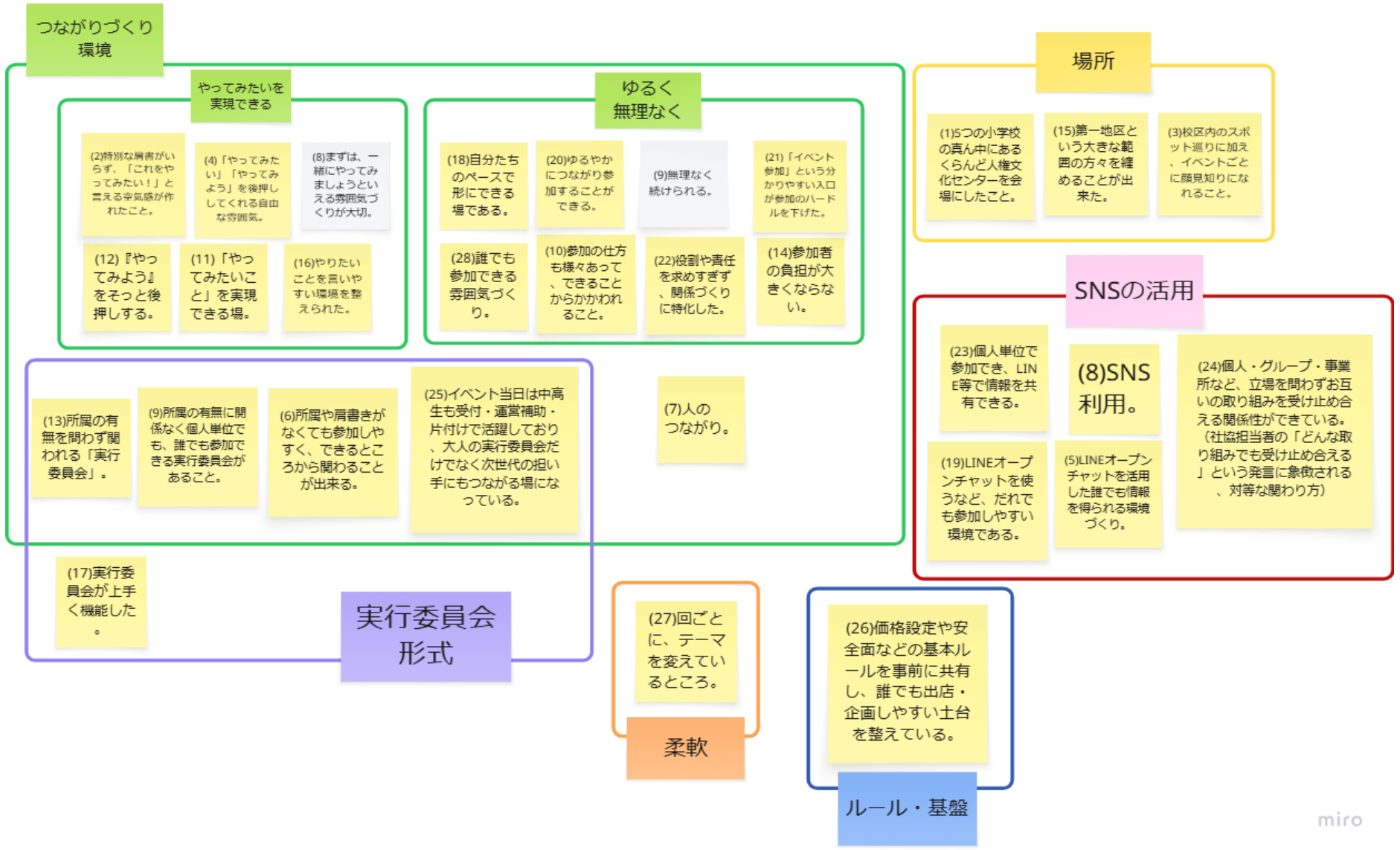
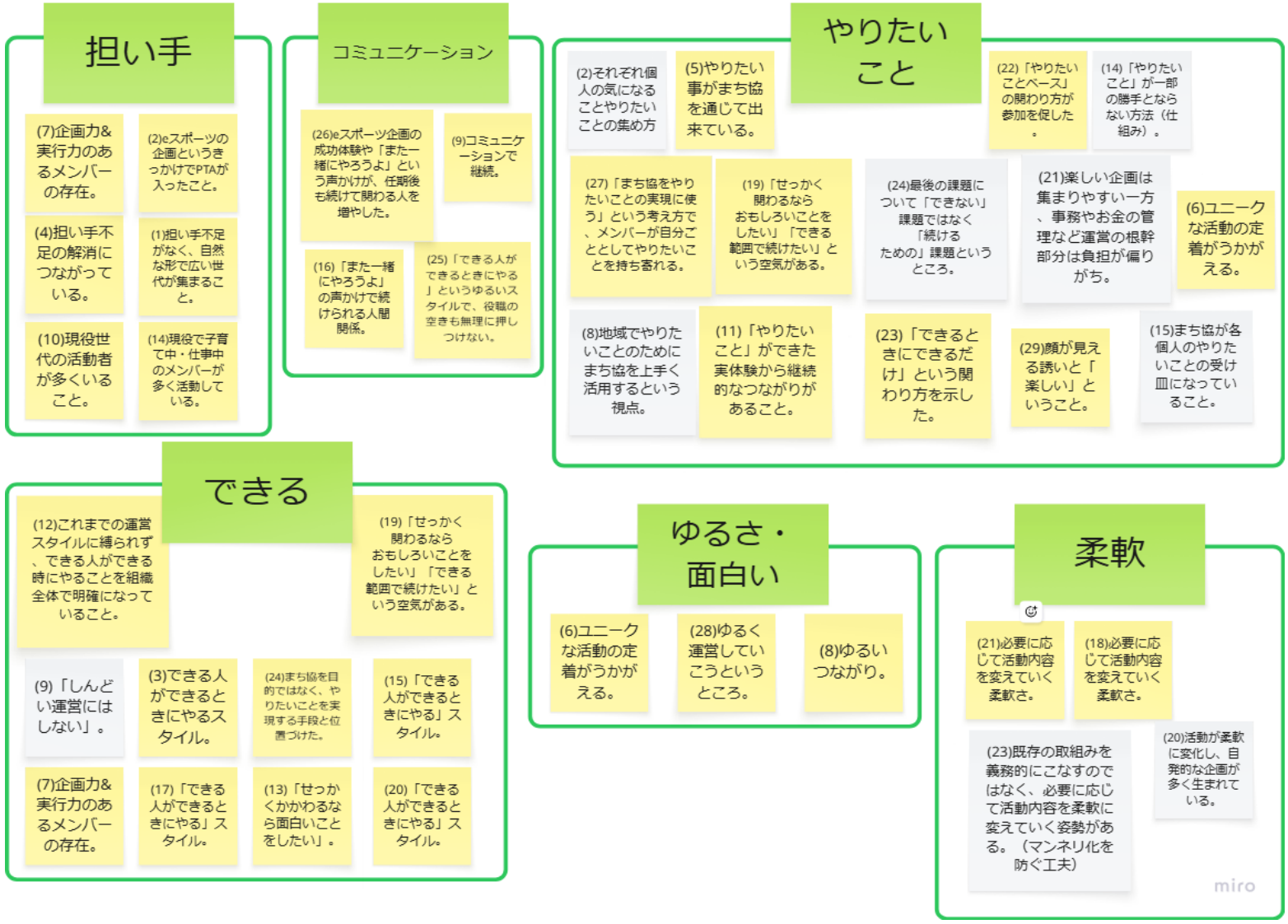
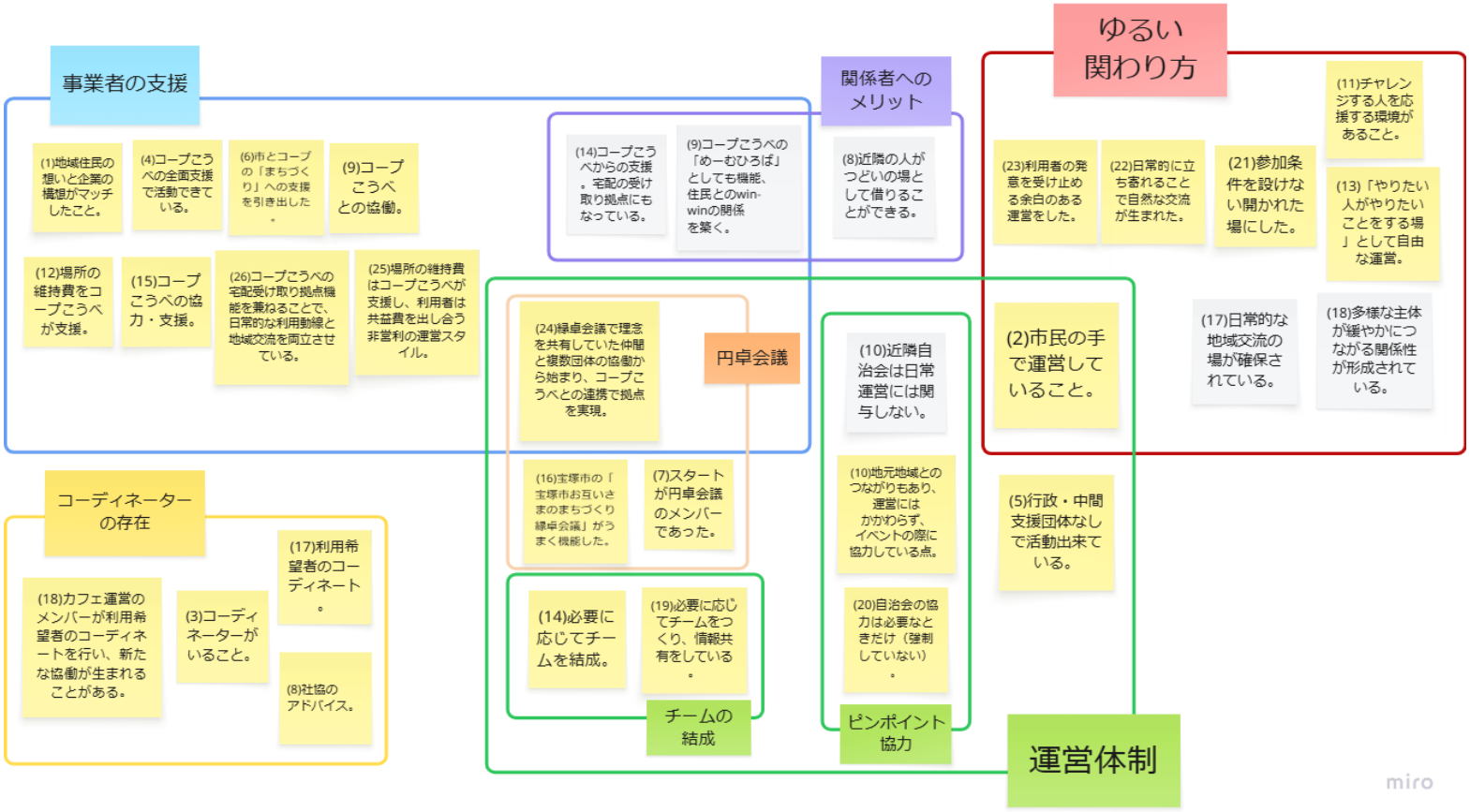
【事例1】にこりたす1DAY



【事例2】売布小学校区まちづくり協議会



【事例3】まちのつどいば　ここぉる



【事例4】西谷栗園再生プロジェクト

デジタル

(11)LINEを活用したり、参加形態が自由でハードルが低い。

思いの強さ

(15)行政とコンサルの関わり（プロジェクトとしての活動）。

協力

(12)協力して育てる栗の苗木。

(22)継続的な作業を通じて自然に協力関係が生まれた。

人材育成・成長

(12)協力して育てる栗の苗木。

(14)お金では測れない幸せ。

(1)１期、２期と人が育っていっている所。

(19)継続的に関わる担い手が育ちつつある。

体験・楽しい

(2)体験だけでなく、楽しい企画へつなげている所。

(13)栗園の整備のみならず、お楽しみのイベントも併用している。

(7)自然と関わりたい。

広がり（広域性）・つながり

(13)栗園の整備のみならず、お楽しみのイベントも併用している。

(24)まちづくり協議会、JA果樹研究会、NPO、行政（北部振興企画課）、コンサル、地域外参加者など多様な主体が協働。

(18)バーベキューや焼き芋など、この栗園でいろんな体験が広がっている。

(23)地域外を含む多世代が参加できる形にした。

(22)継続的な作業を通じて自然に協力関係が生まれた。

協働のデザイン

(21)栗園再生という具体的な目的を共有した。

(16)普段の管理が出来ている。（機能している）

(20)NPO、行政（北部振興企画課）、コンサル、地域以外の参加者(第1期、第2期生)が協働で活動している。

(24)まちづくり協議会、JA果樹研究会、NPO、行政（北部振興企画課）、コンサル、地域外参加者など多様な主体が協働。

(17)※この取組みだけ、市が主催する行事に見え「上手くいった」感じがしない。

地元と馴染んでいる

(20)参加者同士の比較的強い結びつきが生まれている。

参加しやすい

(11)LINEを活用したり、参加形態が自由でハードルが低い。

(9)運営委員会の解散で、自由な運営形態の今後が楽しみ。

場所

(18)放棄されていた栗園という地域資源の再生が進んでいる。

(6)西谷地区の環境をうまく利用している。

(8)地元の方の意識。

(4)耕作放棄地をうまく利用している。

(7)自然と関わりたい。

(28)西谷自体の良さを伝えられる

(23)地域外を含む多世代が参加できる形にした。

多世代・地元交流

(27)多用な世代が参加できる

(24)地域住民とそうではない方が参加できること。

(23)地域外を含む多世代が参加できる形にした。

(8)地元の方の意識。

(19)世代を超えた交流の場になっている。

(3)積極的に参加して、世代を超えた交流ができる。

(25)草刈りや苗木の世話といった共同作業を通じて、参加者同士が自然に交流し世代を超えたつながりが生まれている。

(26)たけのこ掘りやバーベキューなど活動から派生した楽しみが、継続参加の意欲につながっている。

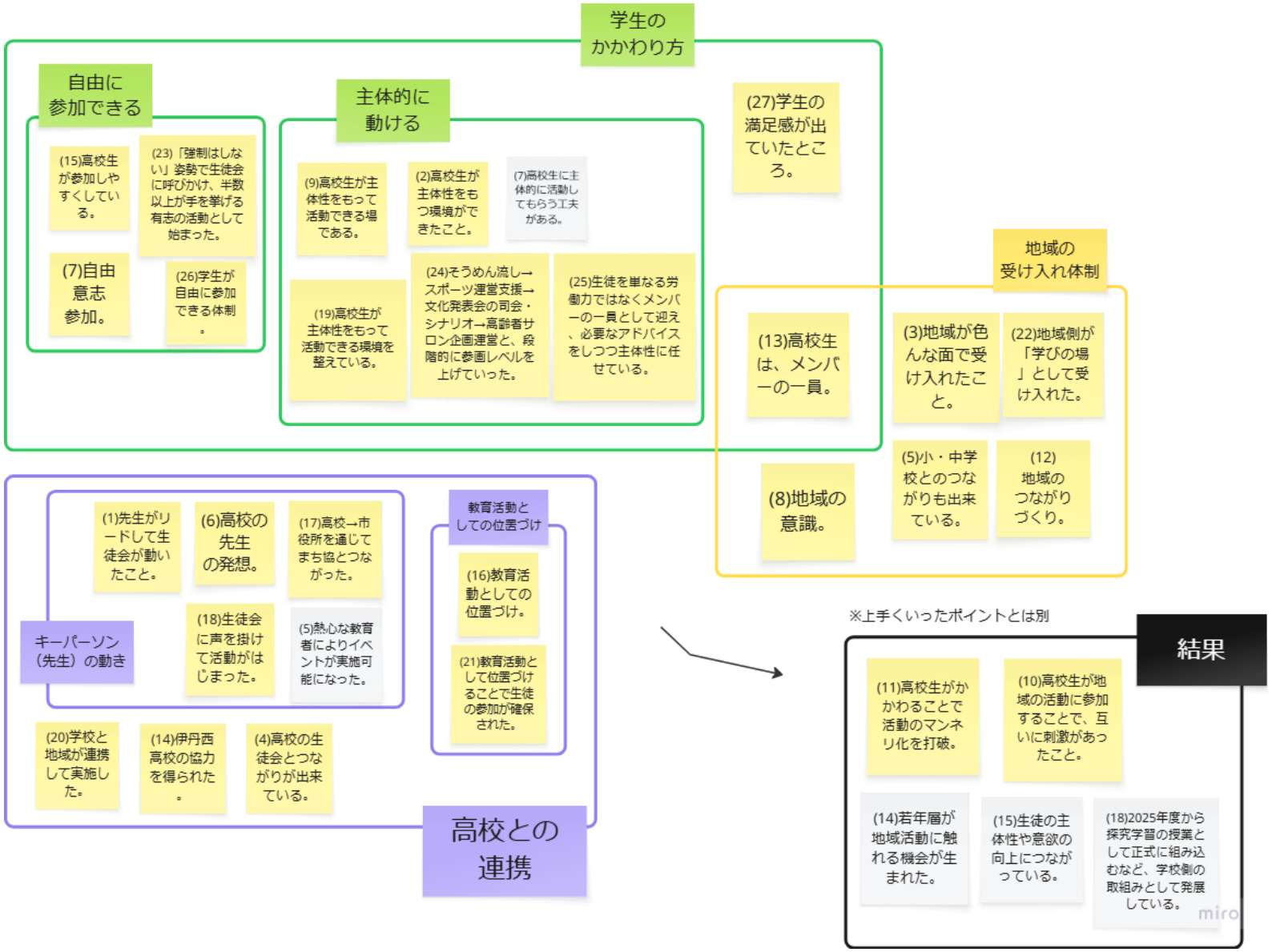
(5)若い世代も参加し、多世代交流の場となっている。

(10)地元の活動者との協働で、地元の人と参加者がつながっている。

(9)世代を超えた交流の場になっている。

miro

【事例5】伊丹西高校×高司小学校区まちづくり協議会



【事例6】紙芝居サークル「ちょうちょ」

